

肺炎球菌について



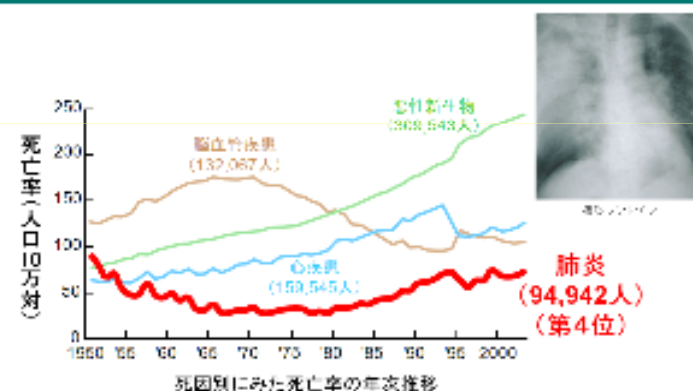
平成24年3月28日、「肺炎球菌」をテーマに講演を行いました。

講師 副院長 古賀 英之 「肺炎球菌について」

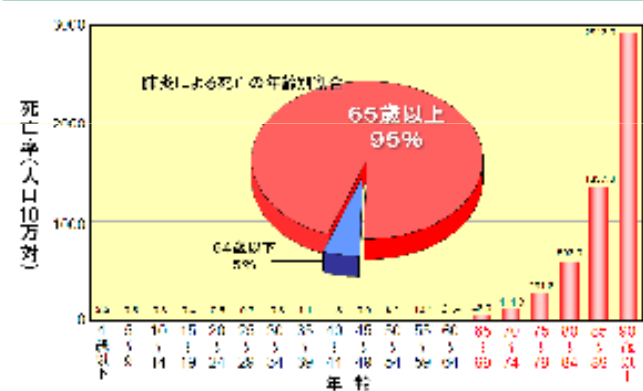
ユニチャーム 南里 千恵子氏 「マスクの使い方」

高齢者の肺炎予防

肺炎が死因の第4位であることをご存知ですか？



肺炎は高齢者の大敵です！



肺炎の予防にはいろいろな方法があります

肺炎予防の心がけ



肺炎球菌ワクチンとは

○肺炎球菌によって起こる病気(感染症)を予防するためのワクチンです。

○接種することによって、肺炎による入院、死亡を減らすことが期待できます。

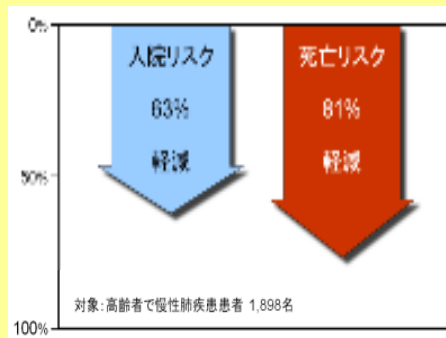
○ワクチンによる免疫は5～9年間持続します。

○1年中いつでも体調の良い時に接種できます。

インフルエンザとの合併

インフルエンザにかかったときには、多くの菌が簡単にのどを通過し肺炎を起こしやすくなりますが、その菌の中で、もっとも重症化を招きやすいのが肺炎球菌です。

しかし、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの両方を接種することで、肺炎によるリスクを軽減できることが報告されています。



肺炎は誰でもなりうる病気ですが、高齢者の場合、免疫力が低下し重篤になりやすく、その予防のためにも予防接種は効果的です。

かかりつけの先生に相談してみましょう。

マスクの使い方

○マスクの使い方には3つの目的があります

- 1.飛散の予防→口や鼻からの分泌物(ウイルスなどの飛沫物)の飛散を防ぐ
- 2.侵入の予防→空気中の浮遊物を体内に取り込まないように予防する
- 3.のどの保湿→鼻から咽頭までの湿度を高め、侵入したウイルスの増殖を抑える

○マスクの種類



不織布マスク(プリーツ型)

- ・マスクをしたまま話してもズレにくい
- ・呼吸が楽に行える
- ・女性は口紅などがついてしまう



不織布マスク(立体型)

- ・顔にすきまなくフィット
- ・女性は口紅うつりが少ない



ガーゼマスク

- ・通気性がよい
- ・保湿性や保温が高い
- ・乾燥からのどを守る
- ・不織布マスクに比べ、防塵性能が低い

正しいマスクの使い方

つけ方

- ①鼻部分を鼻すじにフィットさせ、ゴムひもで耳にしっかり固定する。
- ②鼻・ロ・あごがしっかりフィットするように調節する。

はずし方

- ①マスクの表面を触らないように、片耳のゴムひもを持ち、顔から外す。
- ②反対側も同様に、ゴムひもの部分だけを持ち、顔から外す。

○マスク着用に関するアドバイス

マスクをしたからと言って「99%以上のウイルスがカットされるとは断言できません。

- ★咳やクシャミの症状のある人が、口や鼻を覆うためにマスクを着けると、咳やクシャミの飛沫が飛び散るのを防ぐことで、ほかの人への感染をくいとおめることができます。
- ★マスクを着ければ感染を必ず防げるというわけではありません。できるだけ外出を避ける、人ごみを避けるなどの対策が重要です。
- ★使用中のマスクの表面にはウイルスがついている可能性があるため、触らないようにしましょう。



次回予告

平成24年6月のテーマは、『保険の改訂について』です。
詳細は、玄関・外来ロビーなどのポスター、配布案内資料をご覧ください。

皆様のご参加をお待ちしています。

